

—— 症例報告 ——

帯下を主訴に来院した腔内異物の6歳女児例

守谷 充司, 齋藤 寧子, 平山 亜由子*
 宇賀神 智久*, 早坂 篤*, 新妻 創
 高橋 俊成, 島 彦仁, 新田 恩
 北村 太郎, 大槻 健郎*, 藤原 幾磨
 村田 祐二, 大浦 敏博

要旨: 小児における帯下や性器出血には思春期早発症, 細菌性膣炎, 腔内異物など様々な原因がある。症状の再発性を持続性に認める場合は, 腔内異物の可能性が高まる。小児期の腔内異物の場合は性虐待を考慮する必要があるため, 虐待に精通した医療従事者の診察や対応, 多職種の連携が必要とされる。今回, 我々は帯下と出血を主訴に来院した腔内異物の1例を経験した。持続する帯下, 出血を認め, 腹部MRI検査, 経腹部超音波検査にて腔内異物を疑い, 経静脈的麻酔下による腔鏡を使用しティッシュペーパーの塊とプラスチック片と思われる異物を除去することができた。小児期の帯下や性器出血は腔内異物を鑑別疾患の一つに置く必要があり, 性虐待を考慮した対応が重要である。

はじめに

小児における帯下や性器出血には思春期早発症, 細菌性膣炎, 腔内異物など様々な原因がある。症状が再発性や持続性に認める場合は, 腔内異物の可能性が高まる。小児期の腔内異物の場合は性虐待を考慮する必要があるため, 虐待に精通した医療従事者の診察や対応, 多職種の連携が必要とされる。今回, 我々は帯下を主訴に来院した腔内異物の1例を経験し, 院内の虐待対策チームによる対応を行ったので経過を報告する。

症 例

患児: 6歳, 女児。

主訴: 持続する帯下, 性器出血。

家族歴: 特記事項なし。

生活環境: 症状出現時, 父とは1か月前から別居。母, 妹, 弟の3人暮らし。

現病歴: 来院1か月前から黄緑色の帯下が出現

した。来院2週間前, 陰部の掻痒感, 悪臭を認めたため近医を受診し, 抗生物質(セフジニルの内服, ゲンタマイシンの外用)による治療を開始した。以後, 症状は改善せず出血も認めため, 当院産婦人科を紹介受診した。細菌性膣炎の疑いにて抗生物質(アジスロマイシン)の内服を開始したところ症状は少しずつ改善したが, 抗生剤の内服を終了すると症状が再燃したため当科へ紹介となった。

初診時身体所見: 体温36.7°C。乳房腫大や恥毛なし。外陰部に発赤あり, 帯下は多め, 腔鏡での初回診察では異物を確認できなかった。

初診時検査結果: 経肛門の超音波検査, 異常なし。膣分泌物検査, 淋菌PCR検査, クラミジアPCR検査いずれも陰性。膣分泌物培養検査, 常在菌や大腸菌のみ。腹部MRI検査, T2強調像にて腔内に辺縁明瞭で内部が不均一な高信号所見あり(図1)。経腹部超音波検査, 膀胱より背側部に径12.0mm×6.8mmの高エコー域あり(図2)。

治療経過: 臨床経過, 腹部MRI検査, 経腹部超音波検査から腔内異物の可能性が高いと判断し, 外来にて経静脈的麻酔下で腔鏡を使用し外陰

仙台市立病院小児科
*同 産婦人科

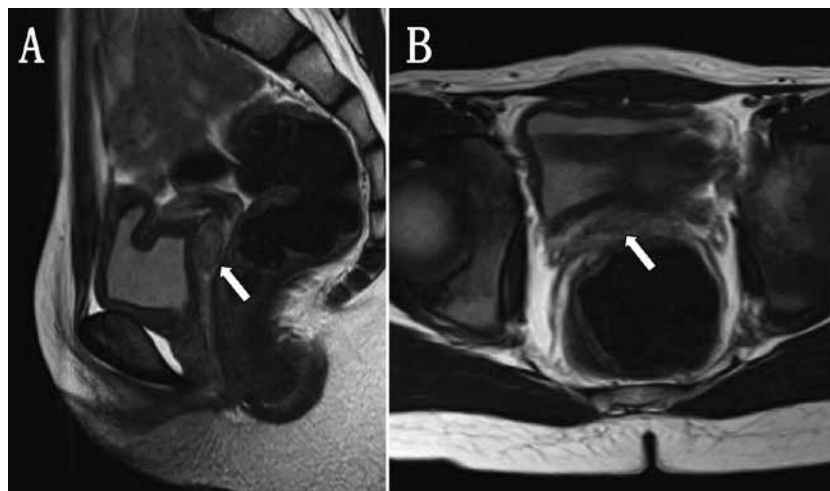


図 1. 腹部MRI検査
A: 矢状断. B: 水平断.
T2 強調像. 腔内に辺縁明瞭で内部が不均一な高信号所見を認める (矢印).

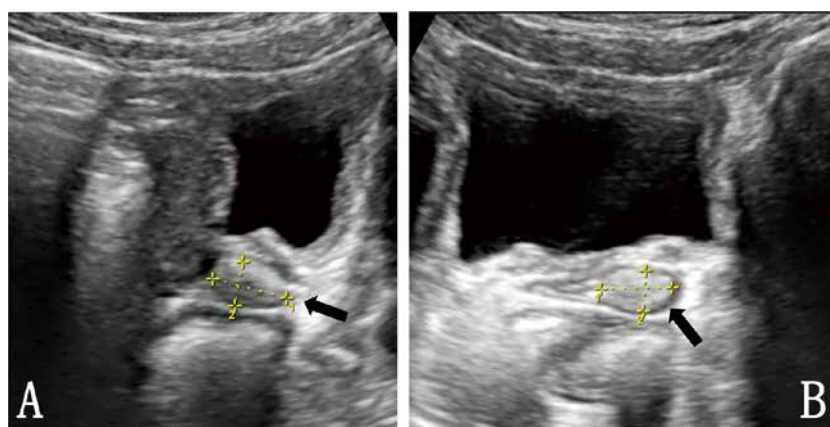


図 2. 腹部超音波検査
A: 矢状断. B: 水平断.
膀胱より背側部に径 12.0 mm × 6.8 mm の高エコー域を認める (矢印).

部と腔内を診察した。外陰部は明らかな異常所見はなかった。腔内に2種類の白色異物(ティッシュペーパーの塊, プラスチック様の片)を確認し除去を行った(図3)。除去後に腔内を再確認したが, 出血や炎症部位などの異常はなかった。

問診にて, 妹が発熱時に坐剤を挿肛されていたところをみて自分も使用してみたいと話をしていたエピソードがあったことが分かった。性虐待も

考慮し当院の虐待対策チーム (Abused Children Support team: ACST) で症例を検討した。父親は来院1か月位前から別居中で, それ以前の性的接触の有無は不明であった。また父親から情報提供を受けるのは難しい状況であり, 今後は父親との接触をしないこととした。一方で, 自分で入れた可能性もあるが性的虐待の可能性も完全には否定できないとの結論になり, 児童相談所への通告

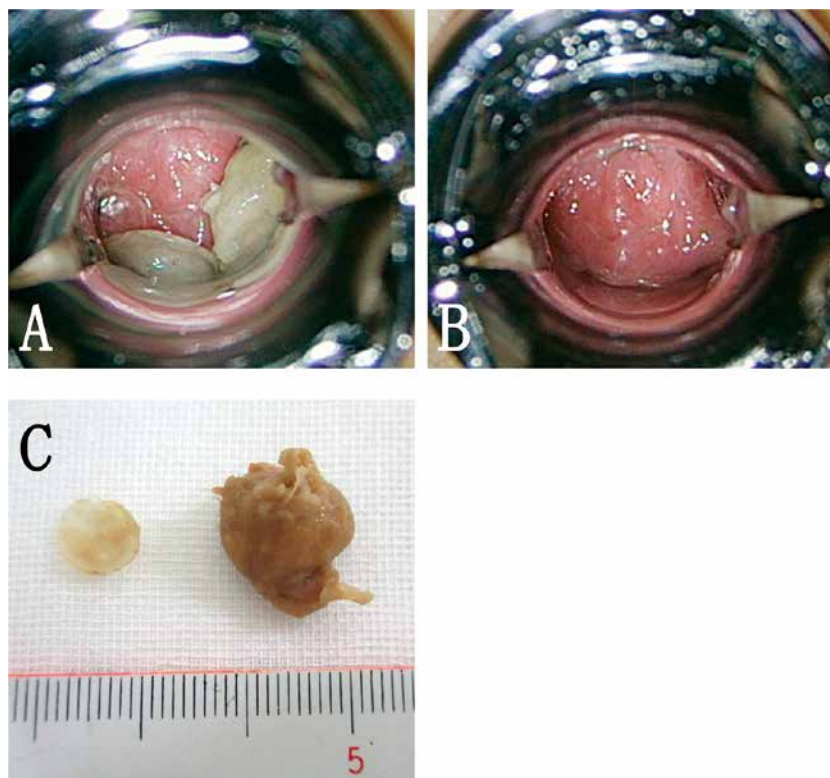


図3. 腔内部と異物の所見

- A. 除去前の腔内部. 灰白色調の異物を認める.
 B. 除去後の腔内部. 出血など認めず.
 C. 異物所見. ティッシュペーパーの塊(右)とプラスチック片(左).

も考慮しながら外来通院を継続することとした。異物除去後の外来での経過では、帯下などの症状は消失しており良好である。

考 察

女兒の帯下、出血の原因は細菌性膣炎や外陰炎などの感染症、アトピー性皮膚炎、クローン病、新生物、尿道脱、腔内異物など様々ある¹⁾。腔内異物は女兒の婦人科疾患のうち約4-10%との報告があり頻度は低い^{2,3)}。帯下や出血の症状から細菌性感染症を疑い抗生物質治療を開始後も症状が持続や再発することが腔内異物の診断契機になることが多く、頻度は58.4%と高くなる⁴⁾。小児の腔内異物の種類はティッシュペーパーが40.8%と最多であるがおもちゃなど多岐に渡り、一般的

に異物を除去すれば症状は消失する。本症例は、既報告と同様に帯下、陰部の掻痒感、悪臭を認め抗生物質の治療を行ったが症状は改善しなかったことから、腔内異物を疑い診断に至ることができた。

腔内異物の画像診断には単純X線検査、超音波検査、CT検査、MRI検査などがあるが、超音波検査は非侵襲的であり腔壁肥厚や腔内部の高エコー域により早期診断されることがある⁴⁾。超音波検査では経会陰、経腹部などのアプローチがあり診断感度が81%との報告もある⁴⁾。一方で、画像診断で腔内異物を確認できなくても異物の可能性は否定することはできず、異物が強く疑われる場合は麻酔を用いた腔鏡検査が確定診断に必要となる⁵⁾。腔鏡検査では異物を確認できなくとも、

悪性腫瘍や瘻孔などの鑑別疾患に有用である⁵⁾。本症例は、非静脈的麻酔下の腔鏡検査では腔内異物を確認することはできなかったが、腹部MRI検査や経腹部超音波検査により腔内異物を強く疑い、経静脈麻酔下の腔鏡検査により腔内異物を確定診断し除去することが出来た。女兒の帯下や出血のある場合、腔内異物を鑑別の一つに挙げ臨床経過や各種検査により診断し、必要な場合は経静脈的麻酔下にて異物確認と除去をすることも必要であると思われる。

腔内異物の原因や動機は、きまぐれ、いたずら、避妊、墮胎など様々である^{6,7)}。小児においては異物挿入の目的意識がなく、挿入原因が判明しないことが多い。また、詳細な問診により異物を挿入したことを思い出すこともある⁸⁾。一方、異物挿入が性虐待と関連していることがある^{9,10)}。腔内異物症例の12人中11人が虐待を疑われ、そのうち8人で虐待者が特定できたとの報告もある¹⁰⁾。性虐待の場合、不適切な診察や問診により性の二次被害が起こり、事実の隠蔽や歪曲も起こりうるため対応は注意が必要である。当院では、ACSTとして複数の専門領域の医師、看護師、ソーシャルワーカーなど他職種により構成される虐待対策チームがある。本症例も産婦人科、小児科による連携により迅速な診断の確定と治療、ACSTによる検討と適切な対応による外来フォローを行うことができた。小児期の腔内異物は性虐待を考慮した診察、対応が非常に重要であると考えられる。

結 語

当院にて帯下と性器出血を主訴に来院した腔内異物の1例を経験した。小児において帯下や性器出血の症状が再発性や持続性に認める場合は、腔内異物の可能性が高まる。本症例は腹部MRI検

査、経腹部超音波検査にて腔内異物を疑い、経静脈的麻酔下による腔鏡を使用しティッシュペーパーの塊とプラスチック片と思われる異物を除去することができた。一方、小児期の腔内異物は性虐待を考慮する必要があるため、虐待に精通した医療従事者の診察や対応、多職種の連携が必要とされる。小児期の帯下や性器出血は腔内異物も鑑別疾患の一つに置き、適切な検査による診断と治療、さらには性虐待を考慮した対応が重要である。

文 献

- 1) Carole J et al. : Diagnosis, Treatment, and Evidence. Child Abuse and Neglect, Kongoshuppan, Tokyo, pp. 154-172, 2017
- 2) Paradise JE et al. : Probability of vaginal foreign body in girls with genital complaints. Am J Dis Child **139** (5) : 472-476, 1985
- 3) Smith YR et al. : Premenarchal vaginal discharge : findings of procedures to rule out foreign bodies. J Pediatr Adolesc Gynecol **15** (4) : 227-230, 2002
- 4) Xiuzhen Y et al. : Ultrasonography in detection of vaginal foreign bodies in girls : A retrospective study. J Pediatr Adolesc Gynecol **30** (6) : 620-625, 2017
- 5) Striegel AM et al. : Vaginal discharge and bleeding in girls younger than 6 years. J Urol **176** : 2632-2635, 2006
- 6) 鈴木 皓 他 : 4年間におよぶ帯下を主訴とした少女の腔内異物. 小児科臨床 **37** : 1147-1154, 1984
- 7) 宋 裕賢 他 : 小児腔内異物の検討. 西日泌尿 **66** : 571-574, 2004
- 8) Stricker T et al. : Vaginal foreign bodies. J Pediatr Child Health **40** : 205-207, 2004
- 9) Closson FT et al. : Vaginal foreign bodies and child sexual abuse : an important consideration. West J Emerg Med **14** : 437-439, 2013
- 10) Herman-Giddens ME : Vaginal foreign bodies and child sexual abuse. Arch Pediatr Adolesc Med **148** : 195-200, 1994